

私は今回の事故で亡くなってしまった伊藤翼の母親です。

息子は おだやかな性格で人の気持ちかわかる優しい子でした。
口数は少なかったですがよく私の愚痴を「うん、うん」と聞いてくれていました。
16歳で普通自動二輪、18歳で車の免許を取り、運転には慎重で
人に迷惑をかけることは決してしない子でした。私の助手席に座って
安全確認は必ず一緒にしてくれていましたし。
道をゆずってもらった時などは相手に助手席から手を挙げて礼を
するような礼儀正しさも持っていました。いつか私は息子に
運転をすべて任せて免許返正を返納したいと思っていました。
事故前には体調を崩していた父親の話もよくしていたので
何かあった時には頼りにしているからねとお願ひもしていました。

事故の2ヶ月前に突然、息子からスマホに「ご飯行こ」家族を食事に
誘ってくれました。照れくさかったのか何も言わずに支払いをしてくれました。
あとでそれが父親の誕生日のお祝いだったのだと知りました。
それが最後の家族揃ってのお出掛けでした。
そんな優しい息子が今どこにもいけない事がいまだに信じられません。
いまだに実感が湧かないまま、ただじの中にぽっかりと穴が
空いたような日々を過ごしています。

息子が好きだった物、いっしょに出掛けた場所、好きだった食べ物
日常の中にあふれている息子との思い出が、思い出されるたびに涙が溢れ
天気の良い日、桜が満開だった日、よく音楽が流れてきた時
そんな何気ない瞬間に息子はもう季節を感じる事も音楽を
楽しむ事も出来ないんだと、胸が締め付けられるような苦しさで襲われる

事故の日はいつも通りの日でした。めずらしく夕方からの出勤で、いつものようにさっと仕度して出て行きました。その30分後に事故にあい、3時間後に警察からの連絡で警察署で対面した見子は寝ている時のいつもの翼の姿でした。

警察からは相手は米軍関係者で相手方が右折禁止を曲がって事故をおこしたらしいと伝えられました。見子は安全運転をしていたのでやはり自分のせいで起きた事故ではないのだと思いました。事故から数日たっても被告人の名前すら教えてもらえませんでした。被告人は公務外で基地の外で起きた事故だったのに警察は被告人を逮捕せず、憲兵隊に引き渡したのも、名前も警察では憲兵隊に言っていないか確認してみたいと言っていました。

見子の葬儀には友人、仕事関係の人達、バイクでつながりの合った仲間達、昔のバイト先の人達、たくさんの方々が参列してくれました。

たくさんの人達に親われていたのだと実感しました。被告人側りからも参列させてほしいと言われました。

見子が亡くなり喪失感と放心状態の中。

被告人には許すつもりはないけれど見子にしっかり向き合っ、見子の最後の姿を目に焼きつけて謝罪してしまかたという単純な想いで参列を許可してしまいました。

それが裁判での反省している有利な証書になるとも知りませんでした。ただ謝らせただけという想いでいた。被告人は上官に連れられて涙を見せる事も無く淡々としていました。今となってこんな有利になる機会をあたえてしまい、裁判の判決の判断に入れられてしまった事を後悔しています。

被告人が見子と同じ年だと知ったとき、母親の立場から最悪な情のような複雑な思いがよぎりました。事故後彼はどうしているのか、どのように反省しているのか、軍の指令部に質問してみました。が「このような重大な案件を起して反省しない人はいない」とか、「どのように過ごしているのかはわかりません」という事務的な答えて、その後、明らかにになっていく被告人の行動や態度を矢口につれ、その思いは完全に消え去りました。

事故直後の被告人の様子は衝突して彼はすぐ停止せず
数メートル進んでから停車しています。その後も倒れている息子に
すぐかけよって声をかける様子は見られませんでした。同乗車の方たちも
同じでした。少し離れて倒れている息子を立ったままのぞき見るだけでした。
軍の指令部の方から同乗者に救命士の資格を持っている人が
救命処置をされたと聞きました。がすぐに処置する様子は全く無かったです。
ずっと救命に手をさわってくれた方たちは別の方でした。

被告人達は私達のいのちの傷がいまだに癒えないのに
事故の車をすでに修理して車の所有者を被告人に変更するつもりだと言っています
被告人は危険な運転をしていたにも関わらず
今は被告人の彼女の車を運転しているそうです。
それも事故後の方が運転の回数が増えています。
自由すぎませんか？ 反省しているように見えますか？

私は息子が免許を取ったとき、

運転するということはもしものときに自分の人生を背負うぐらいの責任が
あるのだから、それほどの覚悟と責任感を持って運転しなさいと
大げさだけれど言っていました。

被告人は、責任を感じているのでしょうか？

事故を運が悪かったと言っていると聞きました。

この事故はあなたの右折禁止のルール違反と安全確認を
おこなった無謀な運転によっておこりました。
運ではなく、あなたの重大な過失のせいです。

私達がこの裁判に参加したのは

息子は命をうばわれ 自分の思いを語る機会さえうばわれた無念
と遺族である私達がいじに負った深い傷、これからどれだけの
悲しみを背負って生きていかなければいけないかを言えなからず、
この裁判の短い時間だけでは 息子の存在が
どれだけ 大きく、大切だったか とても伝えられません。

どうか裁判官へ

息子には何の落ち度もなく 被告人の重大な過失により事故と認めて下さい。
被告人にしっかり反省ある期間、償う機会をあたえて下さい。
被告人には未来があります。これからのいくらかでもあります。
被告人の更正、これからのことばかりが優先されることなく、
息子の命の重さを裁判の場でもきちんと受け止めていたいただきたいです。

被告人が米軍によって守られ 反省、償いの状態もわからず
裁判がただの年続玉としておわてしまい。
そのまま二度り帰国させてしまうことがない様に

このような米軍関係者による事故は 逮捕 拘留されることも無く
免許 改正も そのままで何事もなかったように 帰国させて済んでしま
うと思われぬように お願いします。

その後も事故は増え、悲しい事故もまた起きています。

息子の死を無駄にしないで下さい。

厳罰を お願いします。